

指導資料

鹿児島県総合教育センター

社会 第121号

— 中学校，特別支援学校対象 —
平成25年4月発行

課題を設定し追究する学習の充実を目指した 中学校社会科学学習指導法の工夫

— 「基礎・基本」 定着度調査を踏まえて —

中学校社会科の教科目標にある「社会に対する関心を高める」ことは、中学校学習指導要領解説では「社会科の特質を踏まえて学習の過程を大切にし、生徒自ら社会的事象を見だし、それについて課題を設定し追究する学習を重視するとともに、学習を通してさらに関心が高まることなどを目指す意味である」とされている。

そこで、本稿では「基礎・基本」定着度調査における思考・判断を問う設問の分析等を通して、生徒自らが課題を設定し追究する学習の充実を目指した指導法の工夫について述べる。

1 「基礎・基本」定着度調査結果から

(1) 「社会的な思考・判断」の通過率の状況

鹿児島県教育委員会が実施してきた「基礎・基本」定着度調査は、平成24年度で10年目を迎えた。この間、学校教育法等の改正や学習指導要領の改訂があり、基礎的・基本的な知識、概念の習得に加え、これらを活用して思考・判断・表現する力の育成が、一層求められるようになっていく。

思考力・判断力・表現力の育成を重視

することは、「基礎・基本」定着度調査にも反映され、出題内容が工夫されてきたが、同調査では「知識・理解」の設問の通過率に対し、「社会的な思考・判断」の設問の

通過率が下回る傾向が続いている（図1，図2）。

(2) 思考力・判断力を問う設問の分析

県教育委員会は、特に通過率が低かった設問を分析し、これらの設問で求められている力を明らかにするとともに、地理的事象や歴史的事象の意味を、生徒によく考えさせ、より具体的に理解させる指導の工夫を行うよう呼びかけてきた。

平成23年度の中学校第2学年の調査問題において、最も通過率が低かった次の設問も、思考・判断を問うものであった。

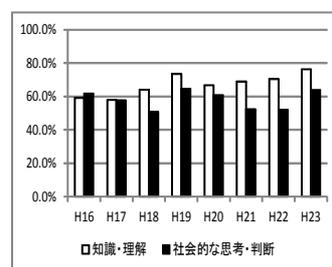


図1 「基礎・基本」定着度調査通過率(中1)

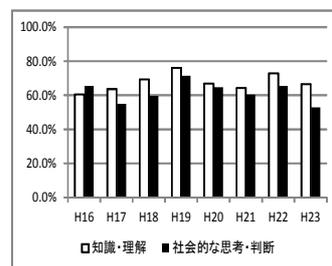


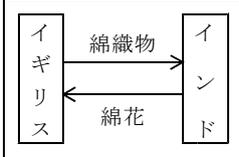
図2 「基礎・基本」定着度調査通過率(中2)

平成23年度「基礎・基本」定着度調査 中学校第2学年

6 (4) (下線部④の)イギリスに対して、インドでは1857年に反乱が起こった。その理由の一つとして考えたことを、資料4～資料6をもとに、下のようまとめた。□□□にあてはまる文を考え、まとめを完成せよ。

(資料4) 蒸気機関で動く機械を使う綿織物の工場(イギリス)

(資料5) 19世紀後半のイギリスとインドの貿易

(資料6)

イギリス製品の普及は、インド手工業を死滅させた。しかし、もっとおそろしい面がある。仕事をうばわれた職人たちはどうなるのだろうか。
ネルー『父が子に語る世界史』より

(まとめ)

インドでは綿織物づくりがさかんだった。しかし、のちにイギリスが□□□。その結果、インドの綿織物づくりはおとろえ、イギリスの支配に対するインドの人々の不満は高まった。

※ 解答類型
(機械を使って大量生産した綿織物をインドに輸出した)

この設問は、イギリスの産業革命や、植民地支配についての知識・理解のみでは、解答は導けない。実際、この設問の通過率は23.3%と極端に低く、無解答率は15.6%に上った。この設問に解答するには、インドの反乱は「なぜ」起こったのか、「どのような」結果になったのかということに対して、機械による綿織物の大量生産、イギリスとインドの貿易の構造、イギリス製品のインド綿織物工業への影響に関する資料をそれぞれ関連付けながら、思考し、そのことを表現する力が必要である。

ここで求められている力は、暗記や教師の教え込みによって身に付くものではないため、日常の授業において生徒に考えさ

せる授業を実践しておかなければならない。設定された学習課題に対し、諸資料を基に社会的事象の起こった原因や結果、影響等について考えさせ、そのことを発表させたり、文章や図、絵でまとめさせたりする指導が必要である。「課題を設定し追究する学習」で、このような指導を実現させることが重要であると考えられる。

2 課題を設定し追究する学習の展開

ここでは、課題を設定し追究する学習を一単位時間で行う例を示す(図3)。

導入	<p>【課題設定場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心・意欲を喚起させ、課題設定によって学習の動機付けを行う。 予想や仮説を立てることにより、学習の方向付けを行う。
展開	<p>【課題追究場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や技能を習得させる。 資料から社会的事象のもつ意味や意義などを読み取らせたり、解釈させたりする。 資料からの読み取りや解釈を基に、説明や論述などを行わせる。
終末	<p>【課題解決場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題追究活動により得られた学習成果から学習課題に対するまとめを行わせる。 学習内容の定着を図る。 学習への満足感や成就感を味わわせ、次の学習への意欲をもたせる。

図3 課題を設定し追究する学習の展開例

(1) 導入

導入段階においては、資料や事象の提示、演示などにより、生徒が既に有する経験や知識を揺さぶり、「なぜかな」と思わせる発問を行うことで、本時の学習課題を設定する。

導入は、学習の展開を決める極めて重要な段階である。ここでは、「なぜ?」、「どのように?」といった社会的事象の一般的な法則性や、社会的事象間の因果関係について考察させる学習課題を設定するようにする。

学習課題の設定後は、予想や仮説を立てさせ、学習課題を解決するための追究の手順や方法を考えさせることで、展開へとつないでいく。

(2) 展開

展開段階においては、設定した学習課題に対し、諸資料を収集・分析することによって思考・判断させる場面を設定することが重要である。

思考・判断させる視点は、例えば歴史的分野では次のようなことなどが考えられる。

ア 歴史事象がどのような構造になっていたかということの考察

(例) 江戸時代「江戸幕府はどのようになくみで幕藩体制を構築し、全国を支配したか」という考察

イ 歴史事象がどのような時代背景の基で成立し、変化したかという経過についての考察

(例) 平安時代「藤原氏の繁栄が、天皇家との外戚関係の構築や、寄進地系荘園の獲得という背景を基に成立した」という考察

ウ 歴史事象が他のどのような歴史事象と関連するかということの考察

(例) 飛鳥時代「班田収授法と租庸調の税制度が関連する」ということの考察

エ 歴史事象が現在のどのような機能につながるかということの考察

(例) 明治時代「帝国議会が、現在の国会につながる」という考察

オ 歴史事象が歴史過程において、どのような意義があるかということの考察

(例) 大正時代「原敬内閣が、現在の政党政治につながる本格的な政党内閣であった」という意義についての考察

(3) 終末

展開段階で考察し追究した結果をまとめ、広げるのが終末段階である。例えば「なぜ」という問いで設定した学習課題に対し、「〇〇のため」、「〇〇したから」といった考察の結果を見取ることができる表現でまとめさせることが重要である。まとめが社会的事象の羅列にならないよう注意する。

(2)のアの例

【学習課題】

①江戸幕府は、どのように全国を支配したのだろうか。また、②それはなぜ約260年も続いたのだろうか。

【まとめ】

①将軍とその支配下の諸大名（幕府と藩）が、強力な領主権力で土地と人民を支配した。また、②幕府の政治・軍事・経済力が、諸大名に比べて大きかったため、260年もの長い間、支配することができた。

『中学校学習指導要領解説社会編』 p79. 22に示されている「『江戸幕府の成立と大名統制』については、幕府が大名を統制するとともにその領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせる。」ということ踏まえ、学習課題①②に対応したまとめを行う。

3 「基礎・基本」定着度調査における学習課題設定を想定した問題

平成24年度の「基礎・基本」定着度調査では、小学校第5学年、中学校第1学年、第2学年の全ての学年で、それぞれ学習課題を設定する設問が出題されている。

平成24年度「基礎・基本」定着度調査中学校第1学年

3 (2) 資料1は、世界の人口と面積についての州別の割合を示したものである。これからアジア州について調べ学習を始める場合に、どのような学習課題を立てることができるか。下の文に続くように学習課題を設定せよ。

(資料1)

人口 67億5006万人	アジア 60.4%	アフリカ 14.6%	ヨーロッパ 10.9%	北アメリカ 7.9%	南アメリカ 5.7%
面積 1億3613万km ²	アジア 23.4%	アフリカ 22.3%	ヨーロッパ 16.9%	北アメリカ 18.0%	南アメリカ 13.1%

世界の人口と面積の内訳(2008年)
(Demographic Yearbook 2008)

アジア州は、世界全体にしめる面積の割合が約2割なのに、なぜ()。

※ 解答類型(人口は6割以上もあるのだろうか)

この問題を解くには、まず、問題文中にある「アジア州」と「面積(23.4%)」に着目し、その後、アジアの人口は60.4%もあることに疑問をもつことが必要である。したがって、実際の授業においては、大陸(州)別の人口比を示すグラフのほか、人口ピラミッド図や高齢者人口の推移を示すグラフなどを用いて、「なぜそうなっているのか」といった疑問を引き出し、そこから学習課題を設定させるようにする。

平成24年度「基礎・基本」定着度調査中学校第2学年

1 (2) 次の会話は、資料1を参考に、アメリカ合衆国の農業について話し合っている様子である。話し合いの内容と資料2から、アメリカ合衆国の農業についてどのような学習課題を立てることができるか。

- Aさん:「アメリカ合衆国ではどのような農産物の生産がさかんなのかな。」
- Bさん:「資料1をみると、アメリカ合衆国ではとうもろこしや大豆、小麦などが多く生産されているね。また、中国でも多く生産されていることがわかるね。」
- Cさん:「中国については以前学習したけど、多くの農産物が生産されていたよね。アメリカも中国も農業がさかんなようだけど、資料2から何か気付くことはないかな。」

(資料1) おもな農産物の生産量の国別割合

とうもろこし 8億2622万t 2008年	アメリカ合衆国 37.2%	中国 20.1%	ブラジル 7.1%	その他 35.6%
大豆 2億3058万t 2008年	アメリカ合衆国 35.0%	ブラジル 25.7%	アルゼンチン 20.1%	中国 6.7%

小麦 6億8341万t 2008年

中国 16.5%	インド 11.5%	アメリカ合衆国 10.0%	その他 62.0%
-------------	--------------	------------------	--------------

(国連食糧農業機関統計データベース資料 2008年)

(資料2) アメリカ合衆国と中国の農業経営の比較

	アメリカ合衆国	中国
100haあたりの農業従事者	2人	404人
穀物生産量	4億1217万t	3億9529万t

(国連食糧農業機関統計データベース資料 2007年)

アメリカ合衆国は中国と比べて()のはなぜだろうか。

※ 解答類型(100haあたりの農業従事者は少ないのに、穀物生産量が多い)

この問題も、提示された資料を基に、学習課題を設定する授業場面を想定した出題となっている。ここでは、資料1から「アメリカ合衆国と中国は穀物の生産量が多い」ということを読み取り、資料2から「アメリカ合衆国と中国の100haあたりの農業従事者数に大きな差がある」ということを読み取ることが必要である。

実際の授業においては、本設問のように、文章の途中に挿入するべき適切な文を、読み取った情報を基に、前後の文とのつながりを考えながら記述させる指導を行うことも生徒の思考を深めさせるのに有効である。

平成24年度のこれらの出題からも、社会科における思考力・判断力・表現力を育成するためには、課題を設定する学習や、設定した課題を追究する学習を一層充実させることが重要であると思われる。

課題を設定し、追究する中で、収集した資料を分析し、事象の構造、変化、他事象との関連、意義について考察することで、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る授業を展開するよう努めたい。

[引用・参考文献]

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』平成20年、日本文教出版
 - 『中学校新学習指導要領の展開 社会科編』平成20年、明治図書
- (教科教育研修課)